

平成27年度 全国学力・学習状況調査
札幌市の調査結果の概要

平成27年10月

札幌市教育委員会

調査の概要

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることに十分に配慮することが必要である。

2 対象学年

- ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

※理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題。

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 実施日

平成27年4月21日（火）

5 調査対象校数及び調査を受けた人数等

【札幌市】

	調査対象校数	調査対象校における対象学年の在籍数	調査を受けた人数及び参加率	
小学校	202 校	15,394 人	14,774 人	96.0%
中学校	98 校	14,815 人	13,773 人	93.0%
合計	300 校	30,209 人	28,547 人	94.5%

※小学校には特別支援学校小学部を、中学校には特別支援学校中学部を含む。

※調査を受けた人数は、回収した回答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

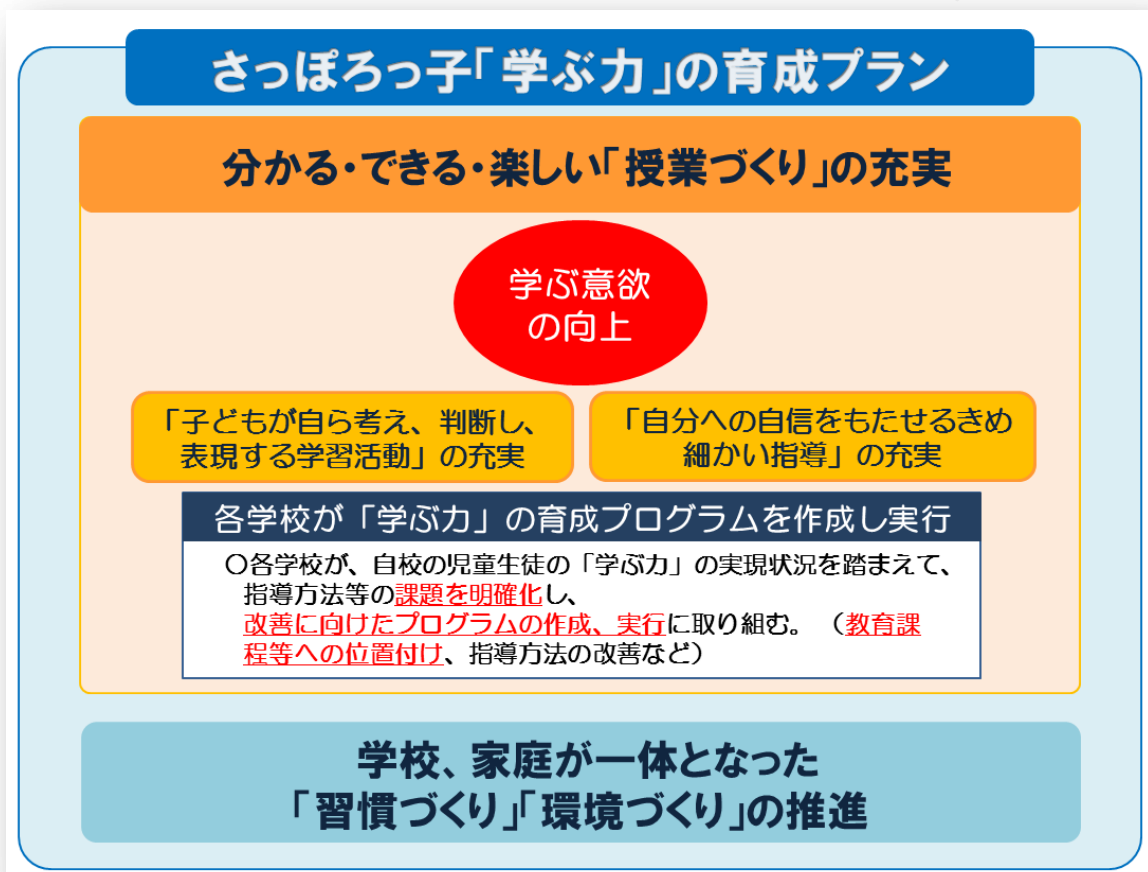
調査結果の活用等について

1 はじめに

子どもが生涯にわたって学び続けるためには、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」(＝「学ぶ力」)を育成することが必要です。

「学ぶ力」は、「学ぶ意欲」や「基礎的・基本的な知識及び技能」、それらを活用して問題解決するための「思考力・判断力・表現力等」という学力の3要素をバランスよく育成することによって高まっていくものと考えています。

このような考えに基づき、平成26年度から推進している「札幌市教育振興基本計画」において、「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」を位置付け、実施しています。



*札幌市の「学ぶ力」の育成に向けた考え方や取組の方向性はこれまでと同様です。今後、さらに「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」に基づく取組の充実を図っていきます。

*各学校の「学ぶ力」の育成プログラムについては、各学校のホームページに掲載されています。

2 調査結果の活用の仕方

＜調査等を活用し、PDCAサイクルによる検証改善を図ります＞

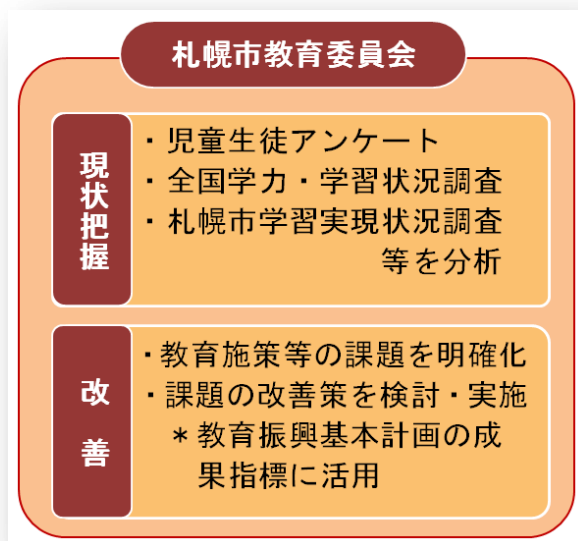
○札幌市の子どもたちに、どのように「学ぶ力」が身に付いているのかを把握し、課題を明らかにして教育施策等を見直し、改善していくことが重要です。教育委員会では、札幌市全体の共通指標（20項目）に基づく児童生徒アンケート調査や、札幌市学習実現状況調査、全国学力・学習状況調査など、様々な調査等を活用して、札幌市全体の子どもたちの現状把握や分析、改善策の明確化に取り組んでいます。

○本資料は、その取組の一環として、全国学力・学習状況調査の結果について、市全体の結果概要をまとめたもので、教科・領域の平均正答率や、全国との比較から明らかとなった課題と、その改善の方向性等を示しています。

○市内小中学校においては、本資料を参考にして、自校の分析、活用に役立てていくこととしています。

* 各学校においては、学校間の序列化や過度な競争を招かぬよう配慮して結果を取り扱うこととしており、学校ごとの数値の公表は行いません。

* 各学校の分析等については、各学校のホームページに掲載予定です。



3 調査結果の公表の仕方

○札幌市の教育推進において、今後、より一層、保護者、市民からの理解と協力を得て教育活動等を充実していくためには、これまで以上に丁寧で詳しい説明が必要との考え方に基づいて、本資料の作成にあたりました。

○市全体の調査結果については、分析結果等を示しつつ、全国平均と比較して±3ポイントの範囲内であれば、全国と「ほぼ同程度だが、やや上回る」などと、教育委員会としての結果に対する捉えを言葉で示すとともに、その根拠がより明確となるように、「平均正答率」の数値を示しています。（本資料p4～6に平均正答率を掲載。）

重要

＜平均正答率の見方・取扱い方＞

◆平均正答率は、各設問の正答率を平均した値です。集団の特性を表す一つではありますが、本調査の目的からすると、設問ごとの状況等を詳しく分析していく必要があります。

◆本調査における平均正答率1ポイントの差は、平均正答数に換算すると0.09～0.36問の差に過ぎませんが、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無解答率や誤答率等も含めて、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要です。

■本資料に掲載した調査結果については、あくまで教育活動等の一側面ですので、その点に十分留意し、本調査結果のみをもって、教育活動全体を評価することのないようお願いします。

札幌の子どもの「学力」と「学習意欲等」について ～ 結果の全体概要 ～

教科に関する調査結果から

【小学校】

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
札幌	68.1	63.7	73.1	44.0	60.1
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

〈平均正答率(%)〉

国語及び算数の問題A・B、理科の問題のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」

【中学校】

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
札幌	77.5	67.3	65.0	42.5	54.5
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

〈平均正答率(%)〉

国語及び数学の問題A・B、理科の問題のいずれも、全国平均正答率と「ほぼ同程度」

※問題A…主として「知識」に関する問題、問題B…主として「活用」に関する問題（詳しくはP1を参照のこと）
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

- ◆**知識・技能の定着**については、小学校国語（漢字を正しく書くことなど）、算数（分数の計算など）に**継続的な課題**。（一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況）
- ◆**「活用」**に関しては、**中学校で全国平均正答率を上回る問題**が見られる。一方で、**「根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」や「問題解決の方法を説明すること」「判断の理由を説明すること」**などの問題で、全国と同様に**誤答率・無解答率が高い状況**が見られ、**小・中学校ともに課題**。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

- 読書が好き**な子どもの割合は、平成19年度に比べ増加し、全国平均より高い状況。

	札幌市平均	全国平均	札幌市平均	全国平均
H19年度	小 72.0%	(71.3%)	中 66.5%	(67.9%)
H26年度	小 75.9%	(73.0%)	中 74.9%	(69.4%)
H27年度	小 74.8%	(72.8%)	中 73.4%	(67.9%)

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している**子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

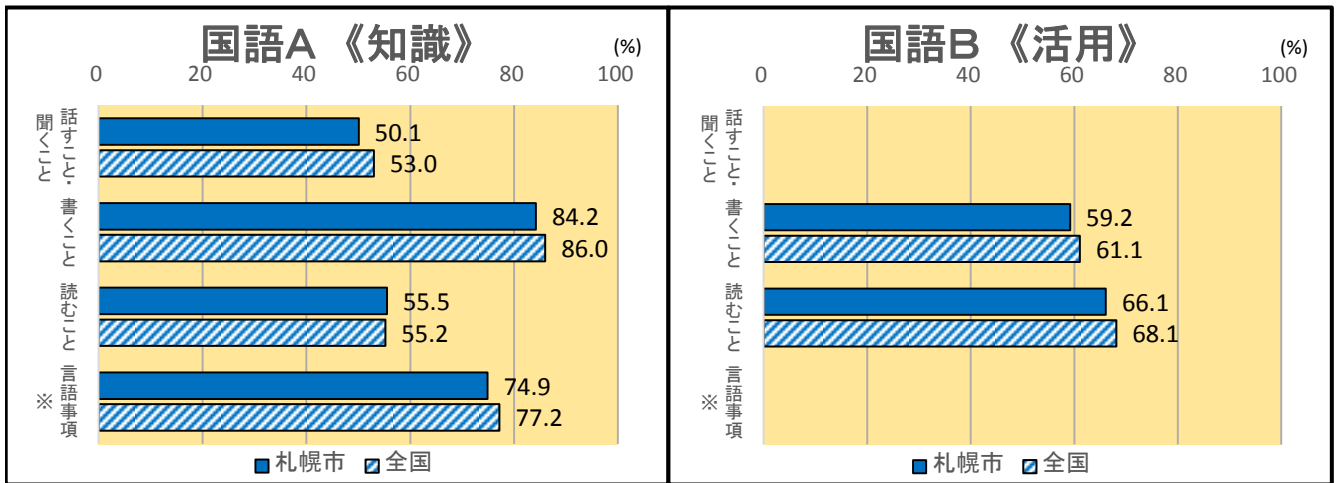
H19年度	小 69.8%	(72.3%)	中 62.7%	(62.0%)
H26年度	小 71.4%	(75.1%)	中 66.4%	(68.0%)
H27年度	小 72.3%	(76.4%)	中 66.7%	(68.8%)

- 将来の夢や目標をもっている**子どもの割合は、平成19年度に比べ増加しているが、全国平均より低い状況。

H19年度	小 81.5%	(83.7%)	中 69.2%	(70.7%)
H26年度	小 84.6%	(86.7%)	中 70.0%	(71.4%)
H27年度	小 84.6%	(86.5%)	中 69.4%	(71.7%)

小学校

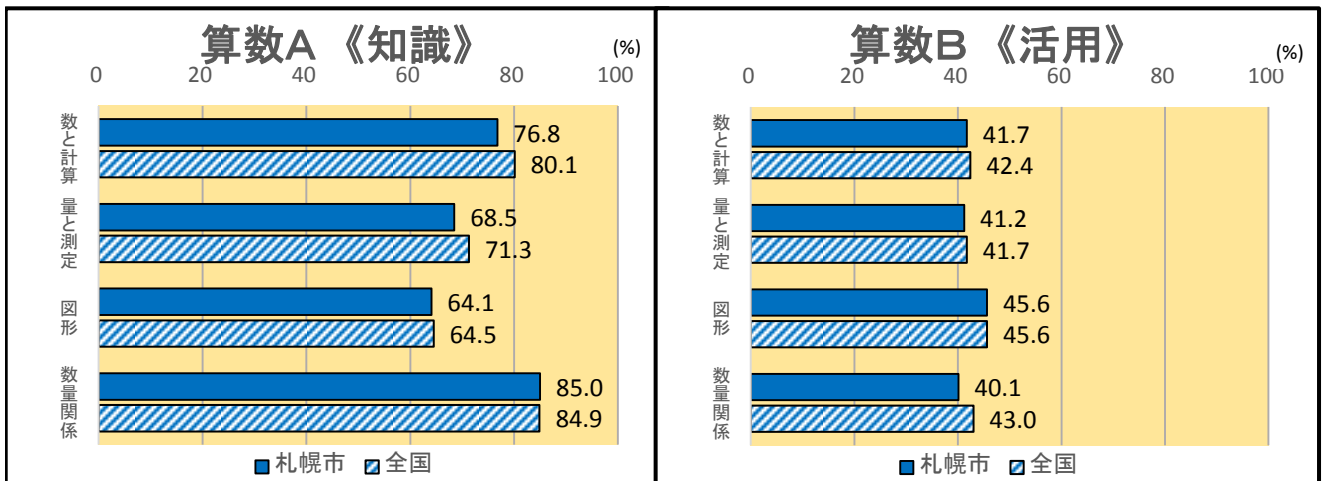
各教科領域別平均正答率【全国平均正答率との比較】



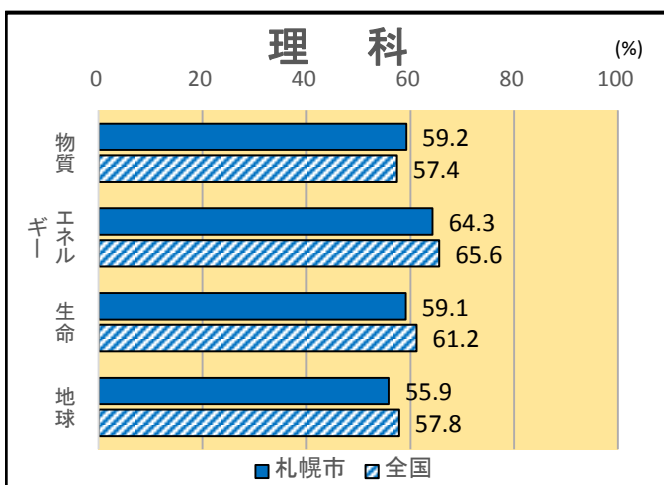
「国語」は、国語A、国語Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

※平成24年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

★国語Bの「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は出題されていない。



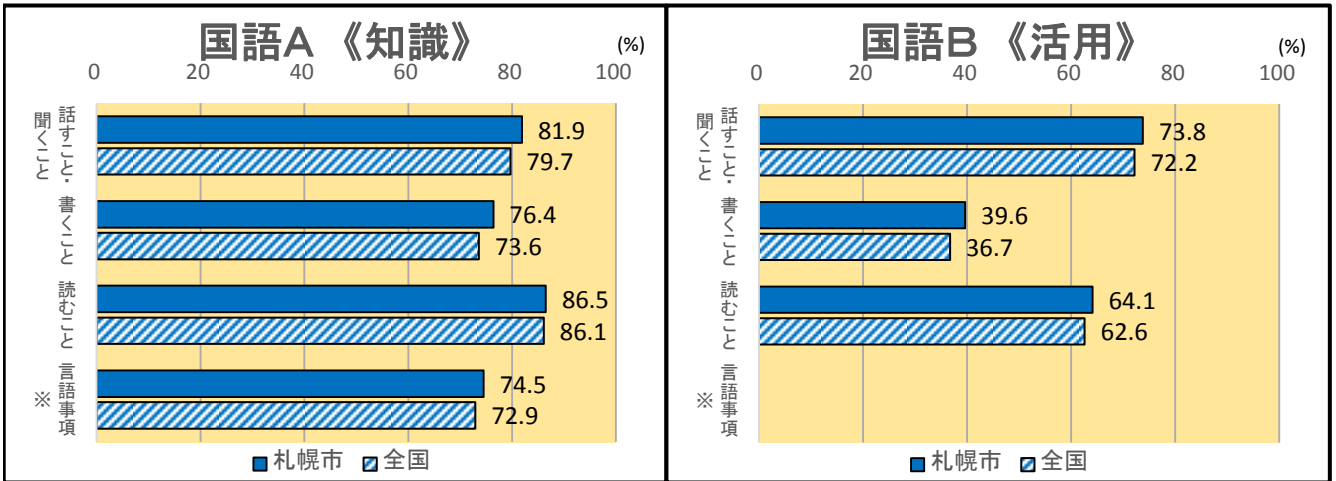
「算数」は、算数Aの「数と計算」領域において、全国の平均正答率を-3.1ポイント以上下回っている。その他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。



「理科」は、全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

中学校

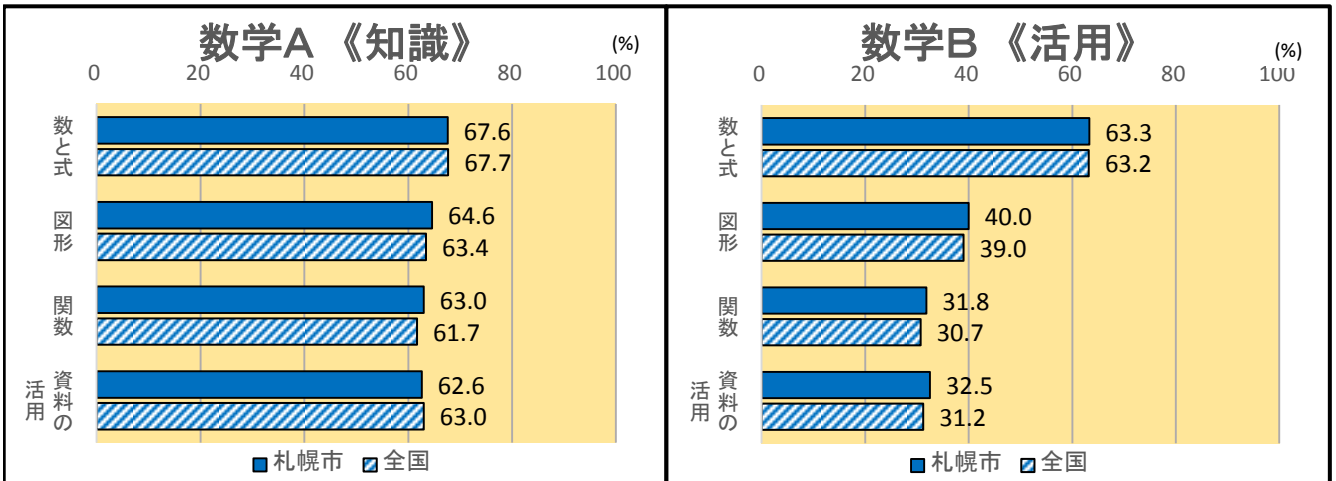
各教科領域別平均正答率【全国平均正答率との比較】



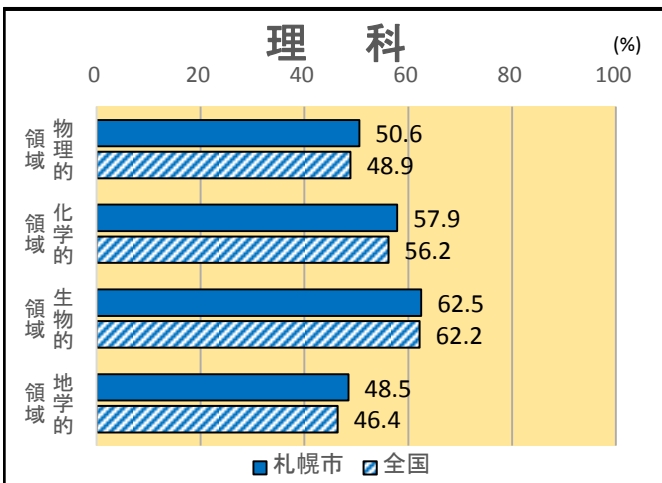
「国語」は、国語A、国語Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

※平成25年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

★国語Bの「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は出題されていない。



「数学」は、数学A、数学Bともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。



「理科」は、全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」※

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「書くこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 話の内容に関する聞き方を工夫すること。
- 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えること。
- 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書くこと。
- 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くこと。
- 文章と図とを関連付けて、自分の考えを書くこと。

改善の方向

- 相手の話の目的や意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点等を整理して考えをまとめるようにする指導の充実。
- 「引用」の意味を理解し、目的に応じて文章の表現や情報などを適切に引用できるようにする指導の充実。
- 新聞等から習った漢字を探す活動など、漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定したり、国語辞典や漢字辞典の利用を習慣付けたりする指導の充実。
- 事実と感想、意見などを区別するとともに、読み手に伝えたいことの内容を明確にした上で、調べた内容や、取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたい内容が十分伝わるよう整理して書けるようにする指導の充実。
- 図表やグラフなどを用いる方法やその効果を理解し、それらを効果的に用いて説明的な文章を書けるようにする指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度 ← (◇) やや上回っている +3ポイント ← 全国平均正答率
(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校国語		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	◇	◆	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り	◇	◇	△	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
	書くこと	◇	-		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	読むこと	◆	◆		-	◇	◇	◇	◆	◆	◆	◆	◇	◆
	言語事項※	◆	◆		◆	◇	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成24年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と計算」

▼全国平均を下回っている。

「量と測定」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「数量関係」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と計算」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「量と測定」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

—全国平均とほぼ同程度である。

「数量関係」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

➤ 異分母の分数の計算をすることや、概数を目的に応じて用いること。

➤ 角の大きさについて、測定の意味を理解すること。

➤ 図形の構成要素及びそれらの位置関係について理解すること。

➤ 百分率について理解すること。

改善の方向

➤ 既習の計算や数直線、図などを用い、計算の意味や仕組みについての理解を深め、正しく計算できるようにするとともに、日常の事象において、目的に応じて概算し、正しく処理できるようにする指導の充実。

➤ 測定の結果についての見当を付けたり、日常の事象と関連付けて考えたりする指導の充実。

➤ 学習や日常の事象から、図形の性質を見出し、説明する活動を通して理解できるようにする指導の充実。

➤ 図や数直線に表す活動等を通して、示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度 (◇) やや上回っている +3ポイント ← 全国平均正答率
(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校算数		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
分類	区分	全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較	
		(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)
学習指導要領の領域	数と計算	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	▼	◆
	量と測定	▼	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	図形	◆	◆	◆	◆	◆	◇	◇	◆	◆	◇	◆	-
	数量関係	▼	◆	◆	◆	▼	◆	◆	◆	◆	◆	◇	◆

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

本市の概要

【領域】

「物質（粒子）」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「エネルギー」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「生命」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「地球」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

- 析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述すること。
- 電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用すること。
- メダカの雌雄を見分ける方法を理解すること。
- 植物に適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述すること。
- 方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析すること。

改善の方向

- 事物・現象をじっくりと観察したり、予想や考察を実験から得た具体的な数値と結び付けながら考えたりするなどの指導の充実。
- 学習を通して明らかになった性質や働きを活用したものづくりを行うなど、学んだことを目的意識をもって適用する指導の充実。
- 飼育を通して体のつくりの違いに気付いたり、目的意識を基にした視点をもって観察したりする指導の充実。
- 学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活の事物・現象に当てはめて考える指導の充実。
- 様々な機会を通して観察・実験用具を使うとともに、必要感をもって観察・実験をする指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3ポイント

(◆) やや下回っている -3ポイント

← 全国平均正答率

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校理科		平成24年度	平成27年度
分類	区分	全国との比較	全国との比較
学習指導要領の領域	物質	◇	◇
	エネルギー	◆	◆
	生命	◆	◆
	地球	◆	◆

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「言語事項」※

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

➢ 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと。

➢ 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。

➢ 文脈に即して漢字を正しく書くこと。

➢ 単語の類別について理解すること。

改善の方向

➢ 学校図書館やインターネットなどを利用しながら、多様な情報を関連付けて読み、自分の考えを深めたり広げたりする指導の充実。

➢ 文章の展開の工夫について、自分の考えの根拠を明確にした上で、書いたり、話し合ったりする指導の充実。

➢ 漢字の意味と部首との関係や、その漢字が使われている熟語を示すなどして、漢字の読みや意味などの基本的な事項を確認し書くことに生かす指導の充実。

➢ 具体的な文章を通して単語の類別について考え、学習した内容が、実際に目的や意図に応じた文章を書くことに生かすことを意識させる指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

中学校国語		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
分類	区分	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)	全国との比較 (A)	全国との比較 (B)
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	△	◇			◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	書くこと	△	◇	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り		◇	◇	◇	△	◇	◇	◇	◇
	読むこと	◇	◇			△	△	◇	◇	◇	◇	◇	◇
	言語事項※	◇				◇		◇	△	◇	◇	◇	

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成25年度調査から「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に変更。

本市の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

「数と式」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

「数と式」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

➤ 数量の関係を文字式に表すこと。

➤ 事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること。

➤ 図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明すること。

➤ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

改善の方向

➤ 関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにする指導の充実。

➤ 日常的な事象を数学的な解釈に基づいて考察し、事柄が成り立つ理由を説明できるようにする指導の充実。

➤ 問題解決の方法や手順を、根拠を明らかにして、数学的な表現を用いて説明するなどの活動の充実。

➤ ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度

(◆) やや下回っている -3ポイント

← 全国平均正答率

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

中学校数学		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度				
分類	区分	全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較		全国との比較				
		(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)	(A)	(B)			
学習指導要領の領域	数と式	◇	△			◇	△	数と式	◇	◇	◆	◇	◆	◇		
	図形	△	△	東日本大震災の影響等により、国において調査の実施を見送り				◇	△	図形	◇	◇	◇	◇	◇	
	数量関係	△	△					△	△	関数*	◇	◇	◇	△	◇	◇
										資料の活用*	△	◇	◇	◇	◆	◇

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)

※平成25年度調査から区分が一部変更。

本市の概要

【領域】

「物理的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「化学的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「生物的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「地学的領域」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 電流と磁界における電磁誘導を利用した技術の仕組みを示す場面において、基礎的・基本的な知識を活用して、実験の結果を説明すること。
- 身の回りの物質において、水に物質が溶ける量について、観察・実験の結果を溶解度と結び付けて分析、解釈すること。
- 動物の生活と生物の変遷における魚類について、背骨のある動物としての名称を理解すること。
- 気象とその変化における自然事象について、その原因を探るために、予想を基に検証する実験を計画すること。

改善の方向

- 学習したことが関係する科学技術について、科学的な概念を使用して考えたり説明したりすることを、単元全体の課題として設定したり、単元の終わりに設定したりするなど工夫した指導の充実。
- 観察・実験の結果を基に、比較したり関係付けたりするなどの視点をもって、分析、解釈する学習場面を設定するなどの指導の充実。
- 身近な生物を扱う際、その生物の特徴を他の生物と比較したり関係付けたりして、分類等に関する基礎的・基本的な知識の定着を図る指導の充実。
- 予想を確かめる実験を計画する際、独立変数と従属変数について整理し、条件を制御した実験を計画することができるような指導の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3ポイント

(◆) やや下回っている -3ポイント

← 全国平均正答率

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

中学校理科		平成24年度	平成27年度
分類	区分	全国との比較	全国との比較
学習指導要領の領域	物理的領域	△	◇
	化学的領域	△	◇
	生物的領域	◇	◇
	地学的領域	◇	◇

△(上回っている) ◇(ほぼ同程度だがやや上回っている) - (全国平均と同じ) ◆(ほぼ同程度だがやや下回っている) ▼(下回っている)